

都道府県別にみた死亡の状況

—平成17年都道府県別年齢調整死亡率の概況—

目次	
1. 年齢調整死亡率について	1
2. 全死因における死亡の状況	
(1) 全国の死亡の状況の年次推移	3
(2) 都道府県別にみた死亡の状況	4
(3) 都道府県別にみた死亡の状況の年次比較	7
3. 三大死因（悪性新生物、心疾患、脳血管疾患）による死亡の状況	
(1) 全国の三大死因による死亡の状況の年次推移	10
(2) 都道府県別にみた悪性新生物による死亡の状況	12
①平成17年の状況 ②年次比較	
(3) 都道府県別にみた心疾患による死亡の状況	14
①平成17年の状況 ②年次比較	
(4) 都道府県別にみた脳血管疾患による死亡の状況	16
①平成17年の状況 ②年次比較	
4. 各死因による死亡の状況（都道府県別）	18
(1) 肺の悪性新生物 (2) 胃の悪性新生物 (3) 大腸の悪性新生物	
(4) 急性心筋梗塞 (5) 脳梗塞 (6) 肺炎	
(7) 不慮の事故 (8) 自殺 (9) 腎不全	
(10) 肝疾患 (11) 慢性閉塞性肺疾患(12) 糖尿病	
5. 粗死亡率の年齢調整死亡率に対する比率	30
統計表・参考	32

厚生労働省大臣官房統計情報部

担当係：人口動態・保健統計課 計析第一係

電話：03-5253-1111（内線7470）

03-3595-2812（ダイヤルイン）

この資料は、厚生労働省ホームページにも掲載しています。

掲載場所：「統計調査結果」→「最近公表の統計資料」

→「都道府県別にみた死亡の状況 —平成17年都道府県別年齢調整死亡率の概況—」

<http://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/jinkou/other/05sibou/index.html>

表 章 記 号 の 規 約

...

計数不明の場合

1. 年齢調整死亡率について

都道府県別に、死亡数を人口で除した死亡率（以下「粗死亡率」という。なお、人口動態統計月報（概数）や人口動態統計年報（確定数）などでは単に「死亡率」という。）を比較すると、各都道府県の年齢構成に差があるため、高齢者の多い都道府県では高くなり、若年者の多い都道府県では低くなる傾向がある。このような年齢構成の異なる地域間で死亡状況の比較ができるように年齢構成を調整しそろえた死亡率が年齢調整死亡率である。この年齢調整死亡率を用いることによって、年齢構成の異なる集団について、年齢構成の相違を気にすることなく、より正確に地域比較や年次比較をすることができる。

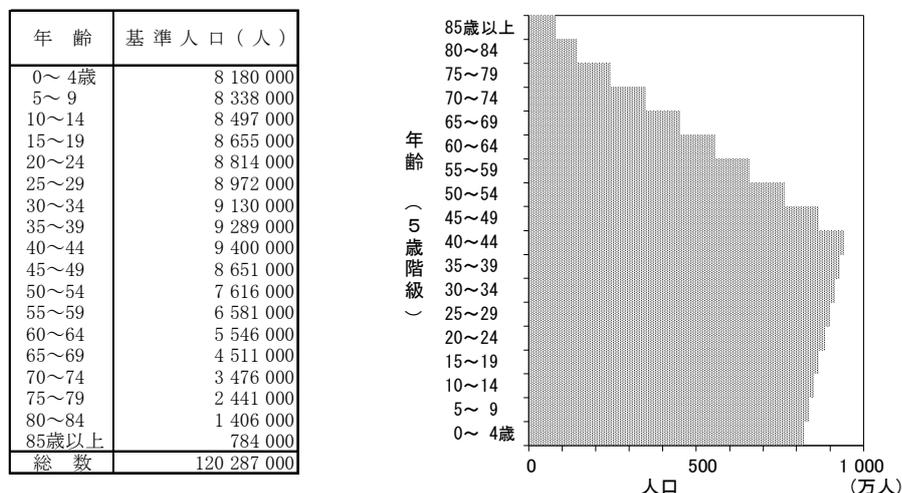
都道府県別年齢調整死亡率は、当該年の人口動態統計死亡数を当該年の国勢調査人口で除した年齢階級別粗死亡率及び基準人口（昭和60年の国勢調査人口を基に補正した人口）を用いて、次式で求められる。なお、年次別についても同様である。

$$\text{都道府県別（死因別）年齢調整死亡率} = \frac{\left(\begin{array}{l} \text{都道府県別} \\ \text{年齢5歳階級別} \\ \text{（死因別）粗死亡率} \end{array} \times \begin{array}{l} \text{基準人口の} \\ \text{当該年齢階級} \\ \text{の人口} \end{array} \right) \text{の各年齢階級の総和}}{\text{基準人口の総数}}$$

都道府県別、死因別の年齢調整死亡率は、昭和35年から5年ごとに算出しており、単位はすべて人口10万対で表章している。なお、全国の死因別の年齢調整死亡率については昭和22年から毎年算出している。

年齢調整死亡率の基準人口について、平成元年までは、全国の年次比較に昭和10年人口、都道府県の比較に昭和35年人口を使用してきたが、いずれも高齢者の占める割合が極めて低く、当時の人口構成とは乖離していたため、平成2年にいずれについても「昭和60年モデル人口」を採用し、過去にもさかのぼって計算した。平成17年についても同じ基準人口を用いている。

基準人口 — 昭和60年モデル人口 —



注：昭和60年モデル人口は、昭和60年国勢調査人口を基礎に、ベビーブームなどの極端な増減を補正し、四捨五入によって1000人単位としたものである。

(利用上の注意)

(1) 日本地図の階級分けについて

日本地図については、次のように年齢調整死亡率が低い順に5階級に分けている。

-  年齢調整死亡率が47都道府県平均から統計的にみて低いと判断される都道府県
(47都道府県平均から標準偏差以上低い都道府県)

-  }
 } 年齢調整死亡率が47都道府県平均から統計的にみて同程度と判断される都道府県
 } (47都道府県平均から標準偏差以内の都道府県)
この範囲の年齢調整死亡率の上限と下限の幅を三等分して三区分としている。

-  年齢調整死亡率が47都道府県平均から統計的にみて高いと判断される都道府県
(47都道府県平均から標準偏差以上高い都道府県)

注：凡例の()の数字は都道府県の数である。

(2) 粗死亡率の年齢調整死亡率に対する比率

ある年次(A年とする)の粗死亡率は、A年の人口の年齢構成を用いるが、A年の年齢調整死亡率は昭和60年モデル人口の年齢構成を用いており、年齢階級別死亡率は共通である。

このため、粗死亡率の年齢調整死亡率に対する比率はA年の人口の年齢構成が昭和60年モデル人口の年齢構成とどれくらい違うかを示す。都道府県別、死因別についても同様である。

$$\text{A年の年齢構成の違い} = \frac{\text{A年の粗死亡率}}{\text{A年の年齢調整死亡率}}$$

よって、

$$(\text{A年の粗死亡率}) = (\text{A年の年齢調整死亡率}) \times (\text{A年の年齢構成の違い})$$

$$\begin{aligned} (\text{A年の死亡数}) &= (\text{A年の人口}) \times (\text{A年の粗死亡率}) \\ &= (\text{A年の人口}) \times (\text{A年の年齢調整死亡率}) \\ &\quad \times (\text{A年の年齢構成の違い}) \end{aligned}$$

2. 全死因における死亡の状況

(1) 全国の死亡の状況の年次推移

平成17年の全国の年齢調整死亡率（人口10万対、以下同じ。）は、男593.2、女298.6である。平成12年に比べ、男は41.0ポイント、女は25.3ポイント低下している。昭和22年以降低下傾向は続いているが、近年では男女とも緩やかな低下となっている。（図1）

また、粗死亡率（人口10万対、以下同じ。）をみると、男女とも昭和30年代から50年代までは、ほぼ横ばいあるいは若干の低下となっていたが、60年代に入ってから上昇傾向が続いている。年齢調整死亡率が低下しているのに対して、粗死亡率が上昇しているのは高齢化の影響による。（図2）

図1 年齢調整死亡率の年次推移

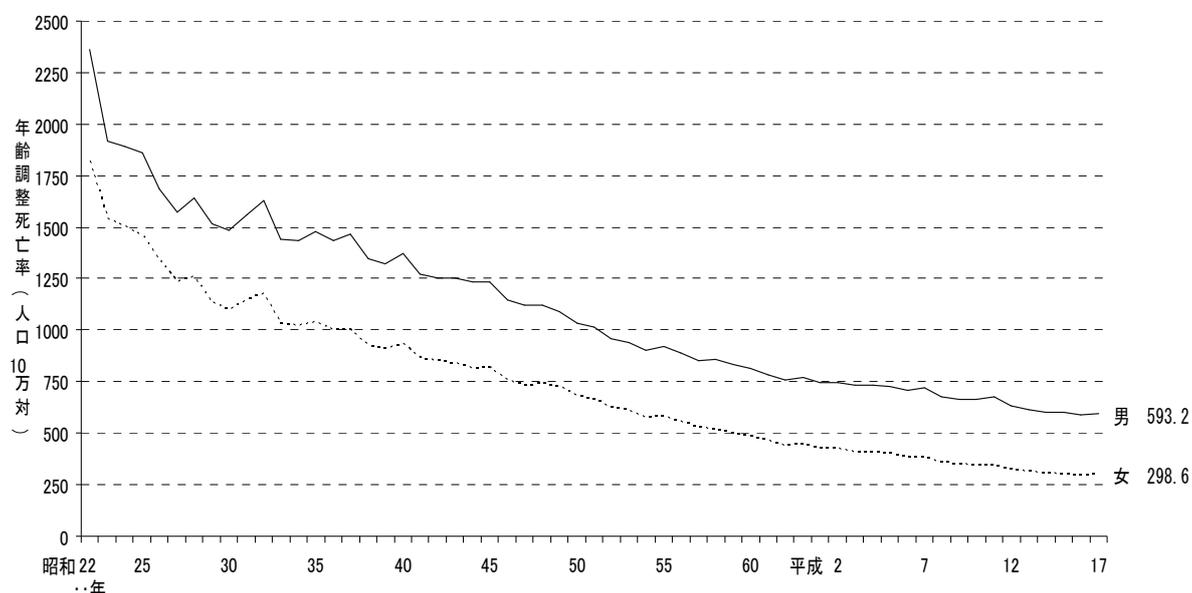
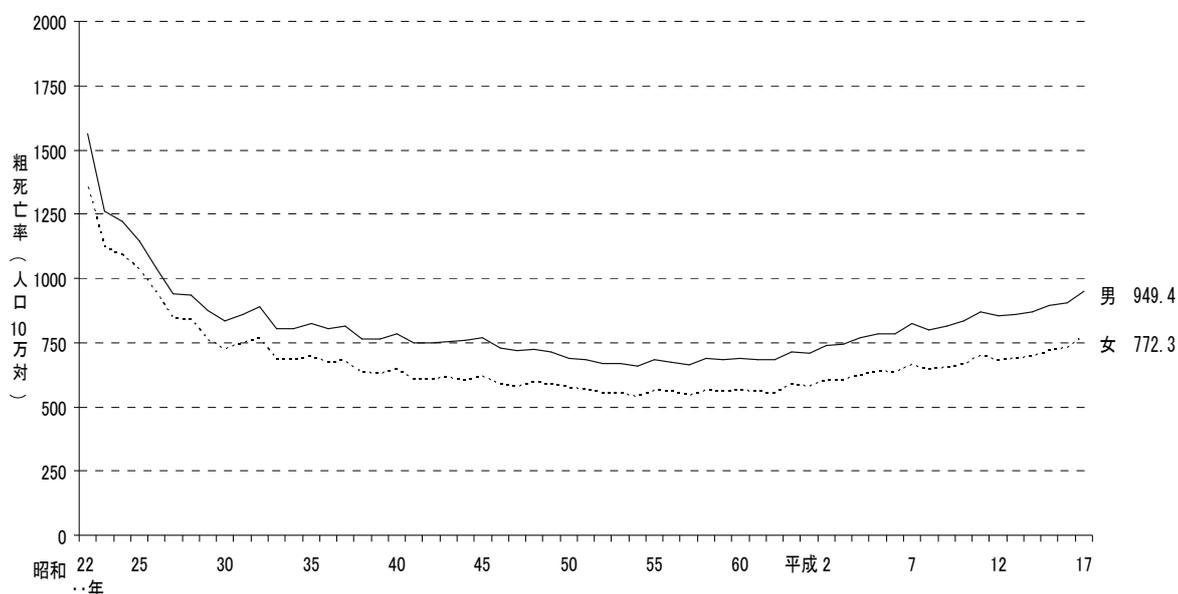


図2 粗死亡率の年次推移



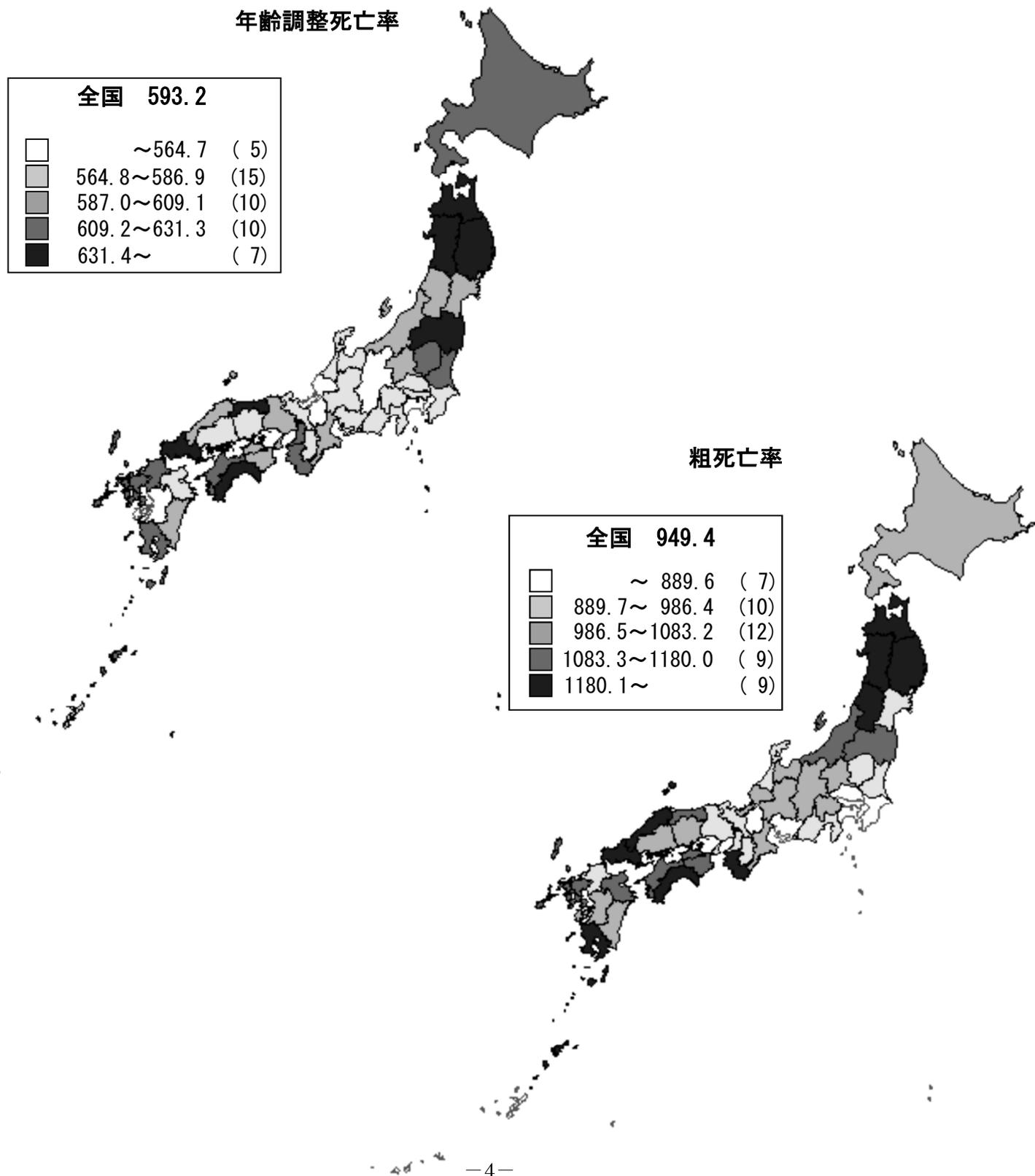
(2) 都道府県別にみた死亡の状況

平成17年の男の年齢調整死亡率を都道府県別にみると、低い都道府県は長野、滋賀、福井、神奈川、熊本等となっており、高い都道府県は青森、岩手、秋田、福島、高知等となっている。

粗死亡率を都道府県別にみると、低い都道府県は沖縄、神奈川、埼玉、愛知、千葉等となっており、高い都道府県は秋田、島根、高知、山口、青森等となっている。

(図3-1)

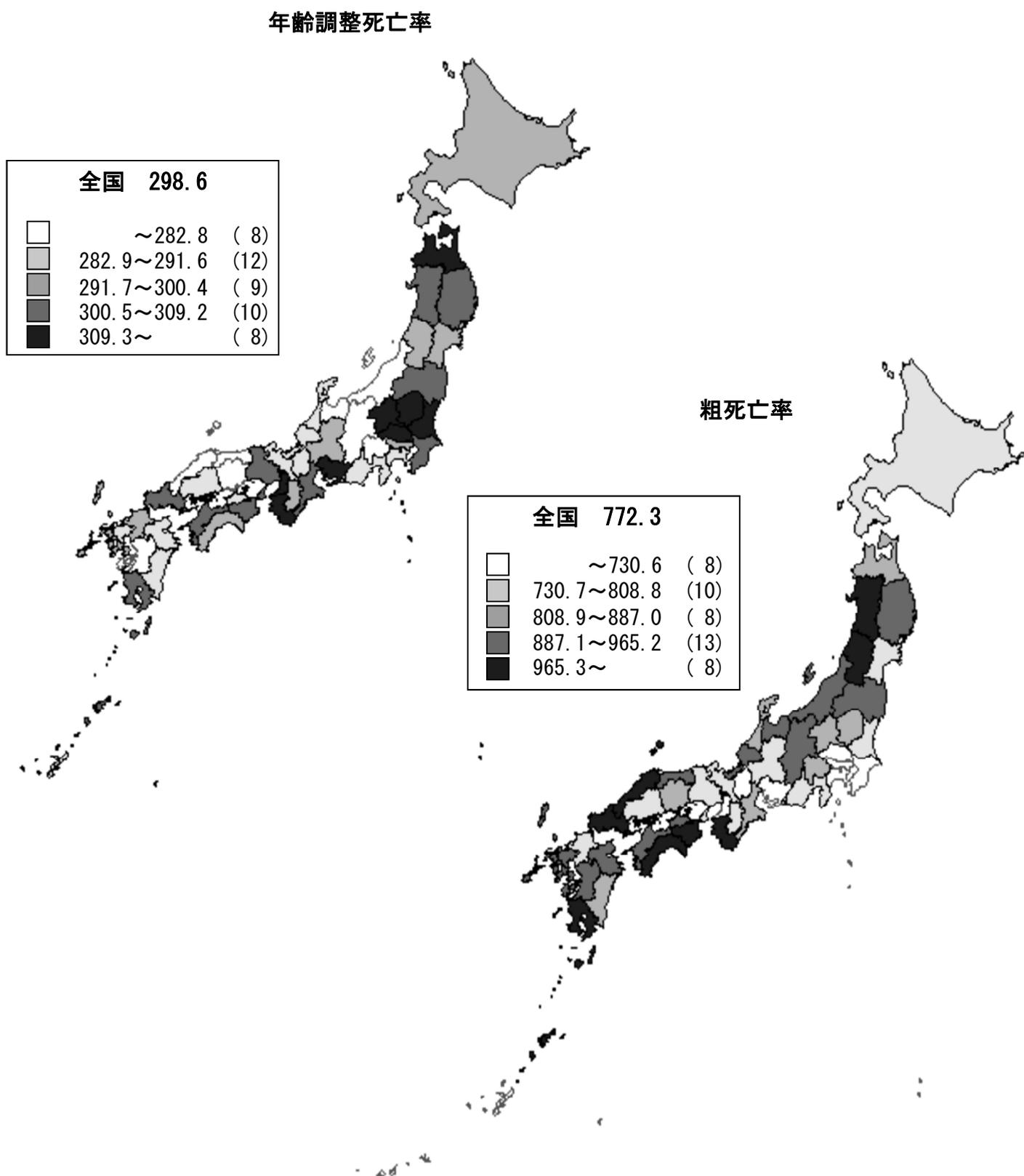
図3-1 都道府県別にみた男の年齢調整死亡率と粗死亡率の比較 —平成17年—



女の年齢調整死亡率を都道府県別にみると、低い都道府県は島根、長野、鳥取、岡山、新潟等となっており、高い都道府県は栃木、青森、和歌山、大阪、群馬等となっている。

粗死亡率を都道府県別にみると、低い都道府県は神奈川、埼玉、沖縄、千葉、愛知等となっており、高い都道府県は島根、高知、秋田、山形、山口等となっている。
 (図3-2)

図3-2 都道府県別にみた女の年齢調整死亡率と粗死亡率の比較 —平成17年—



平成17年の年齢調整死亡率について都道府県別に男女の分布状況をみると、青森は男女ともに年齢調整死亡率が高く、長野は逆に男女ともに年齢調整死亡率が低くなっている（図4-1）。

また、粗死亡率について都道府県別に男女の分布状況をみると、秋田、島根、高知は男女ともに粗死亡率が高く、埼玉、神奈川、沖縄は逆に男女ともに粗死亡率が低くなっている（図4-2）。

図4-1 都道府県別にみた男と女の年齢調整死亡率の分布状況 —平成17年—

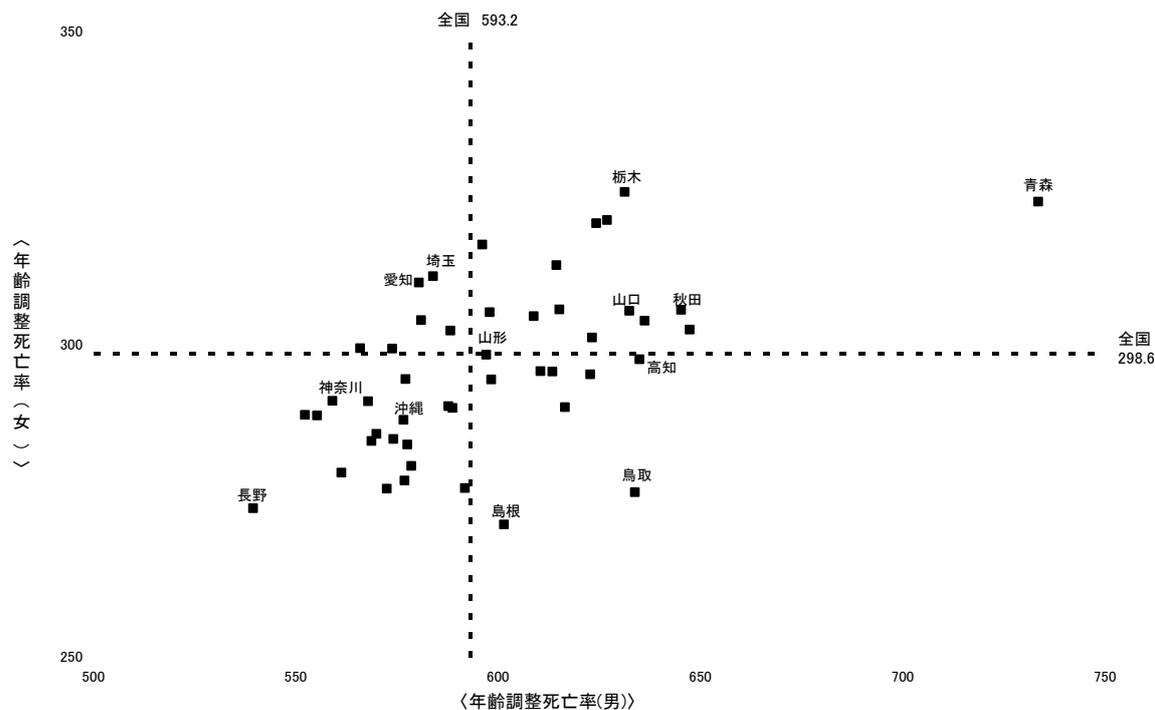
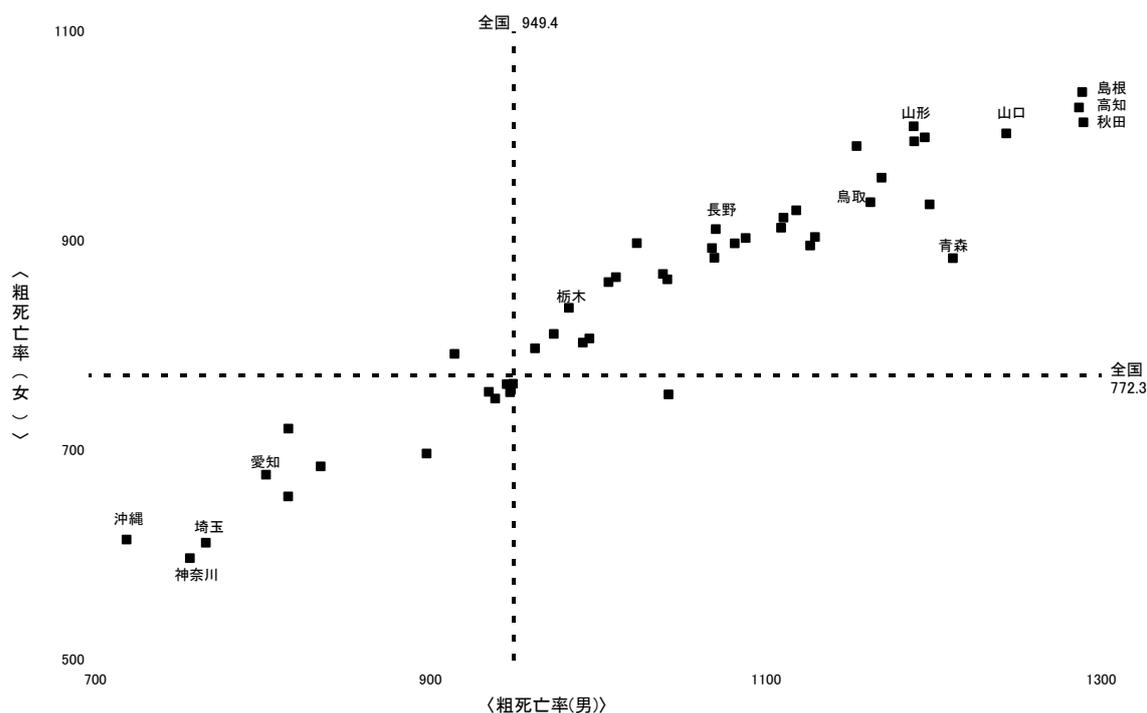


図4-2 都道府県別にみた男と女の粗死亡率の分布状況 —平成17年—



(3) 都道府県別にみた死亡の状況の年次比較

平成12年と17年の年齢調整死亡率について都道府県別の分布状況をみると、男は青森が両年とも高く、長野は低くなっている。また、女は青森、栃木、大阪で両年とも高く、島根は低くなっている。(図5-1、図5-2)

図5-1 都道府県別にみた男の年齢調整死亡率の分布状況
—平成12年・17年—

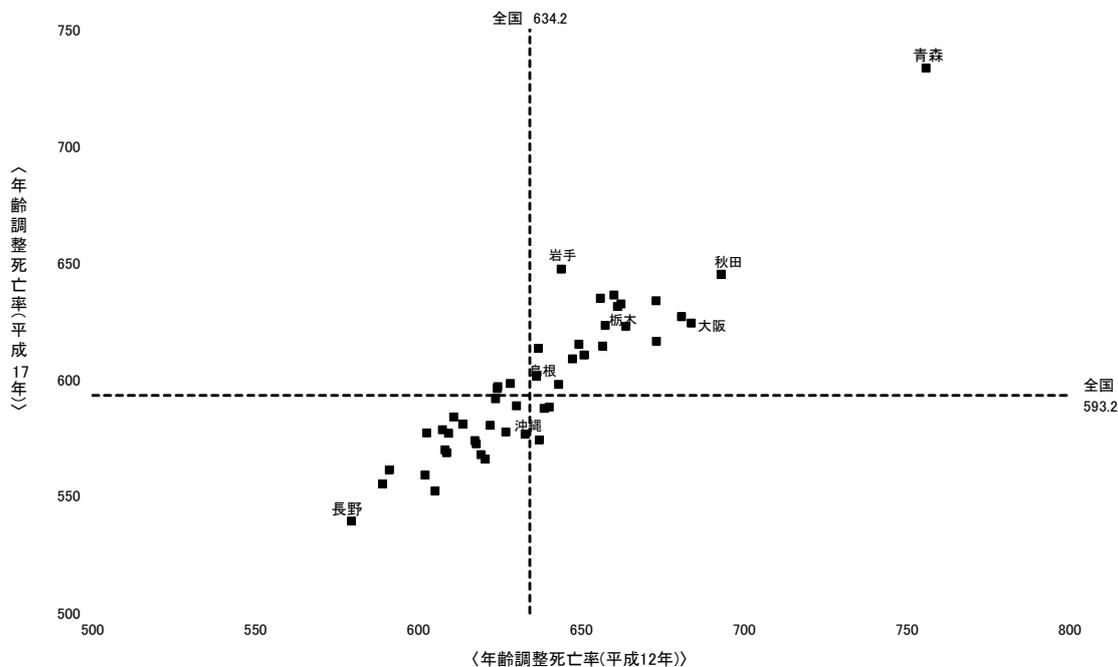
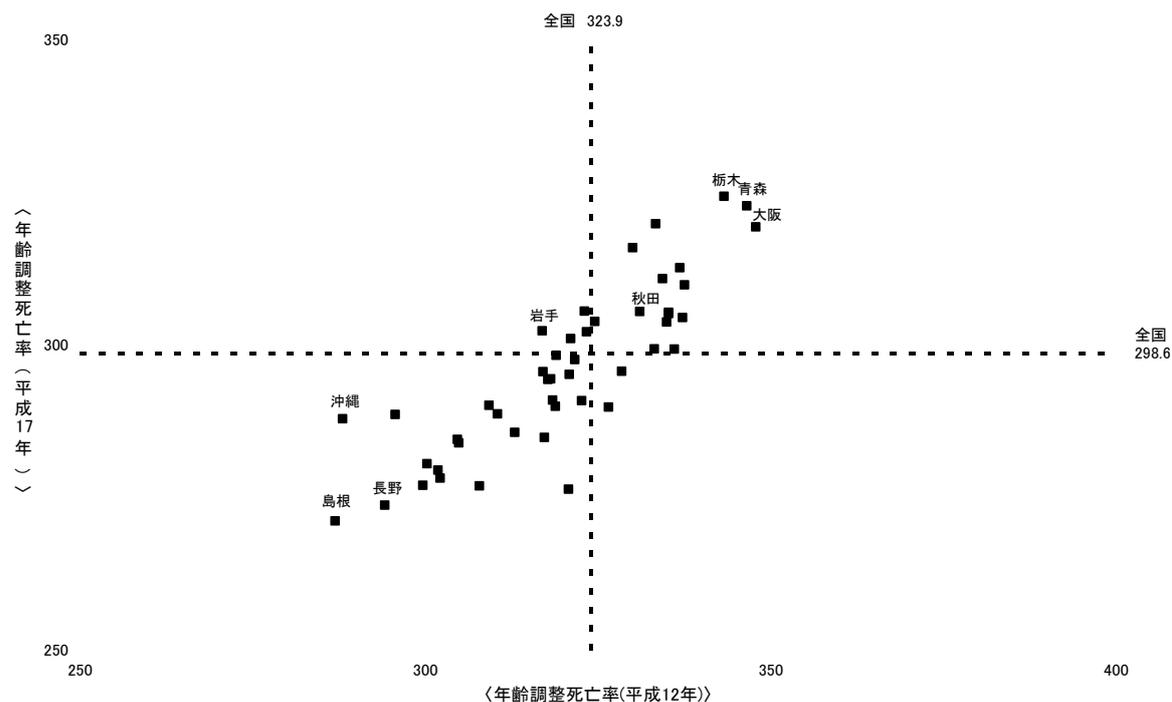
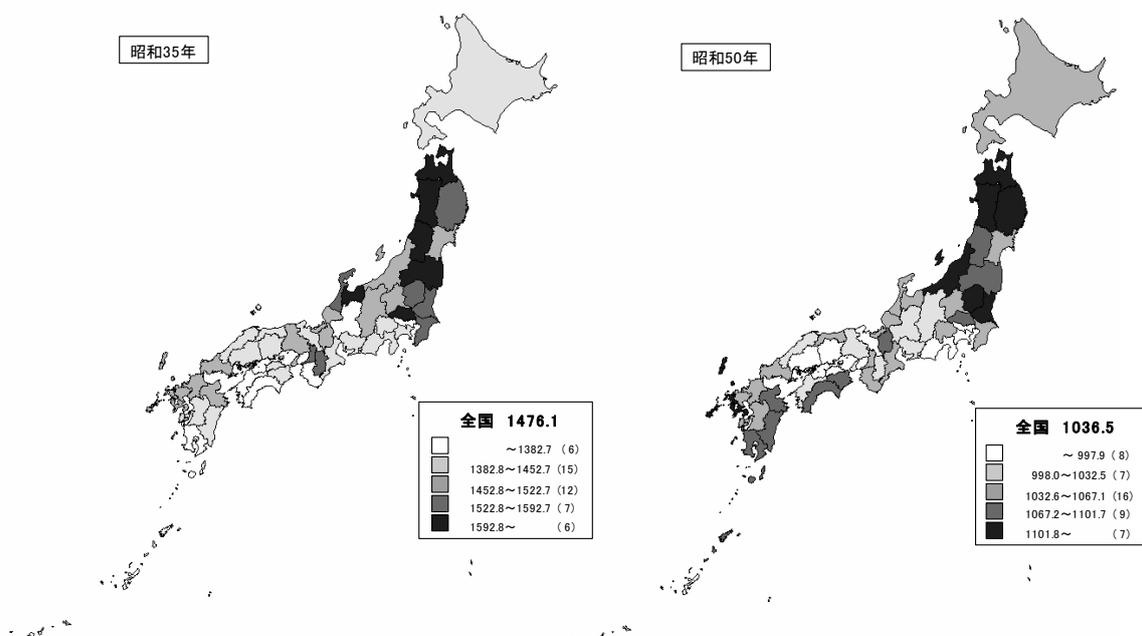


図5-2 都道府県別にみた女の年齢調整死亡率の分布状況
—平成12年・17年—



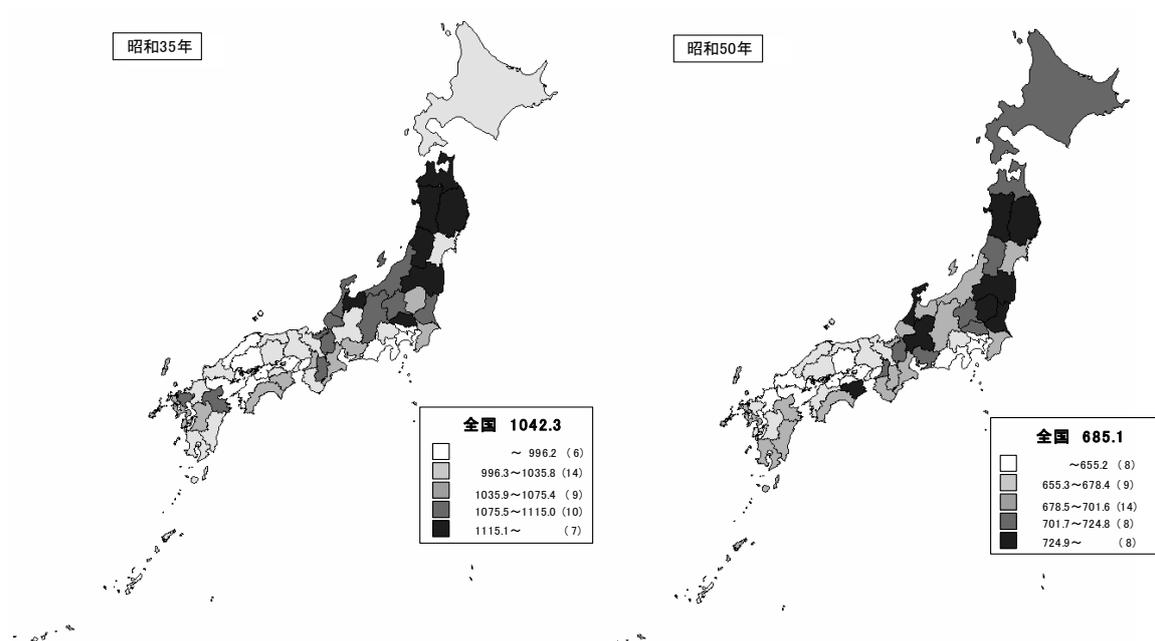
都道府県別年齢調整死亡率を年次別にみると、男女とも昭和35年には西日本に年齢調整死亡率の低い都道府県が多く、東日本に年齢調整死亡率の高い都道府県が多くなっていたが、年齢調整死亡率の全国的な低下にともなってそのような地域傾向もみられなくなってきており、年齢調整死亡率の高い都道府県も全国に分散している（図6-1、図6-2）。

図6-1 都道府県別にみた男の年齢調整死亡率の年次比較



注：昭和35年には沖縄を含まない。

図6-2 都道府県別にみた女の年齢調整死亡率の年次比較



注：昭和35年には沖縄を含まない。

その理由として、東高西低傾向の強い脳血管疾患の死亡率が、全国的に大幅に低下し、差が小さくなってきていることがあげられる。

図6-1 都道府県別にみた男の年齢調整死亡率の年次比較（つづき）

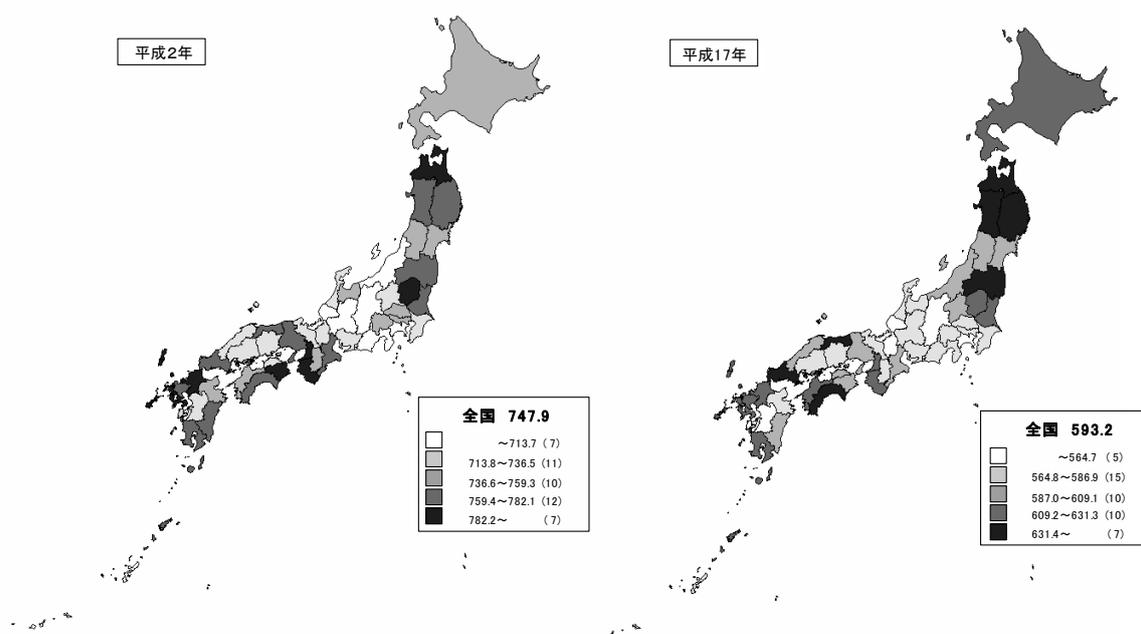
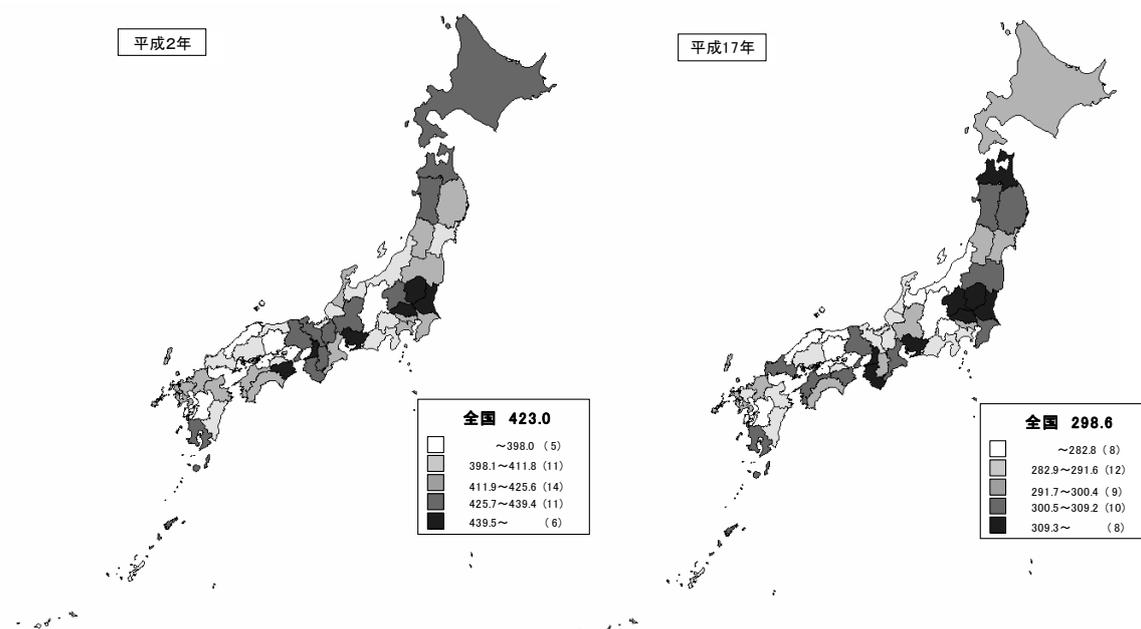


図6-2 都道府県別にみた女の年齢調整死亡率の年次比較（つづき）



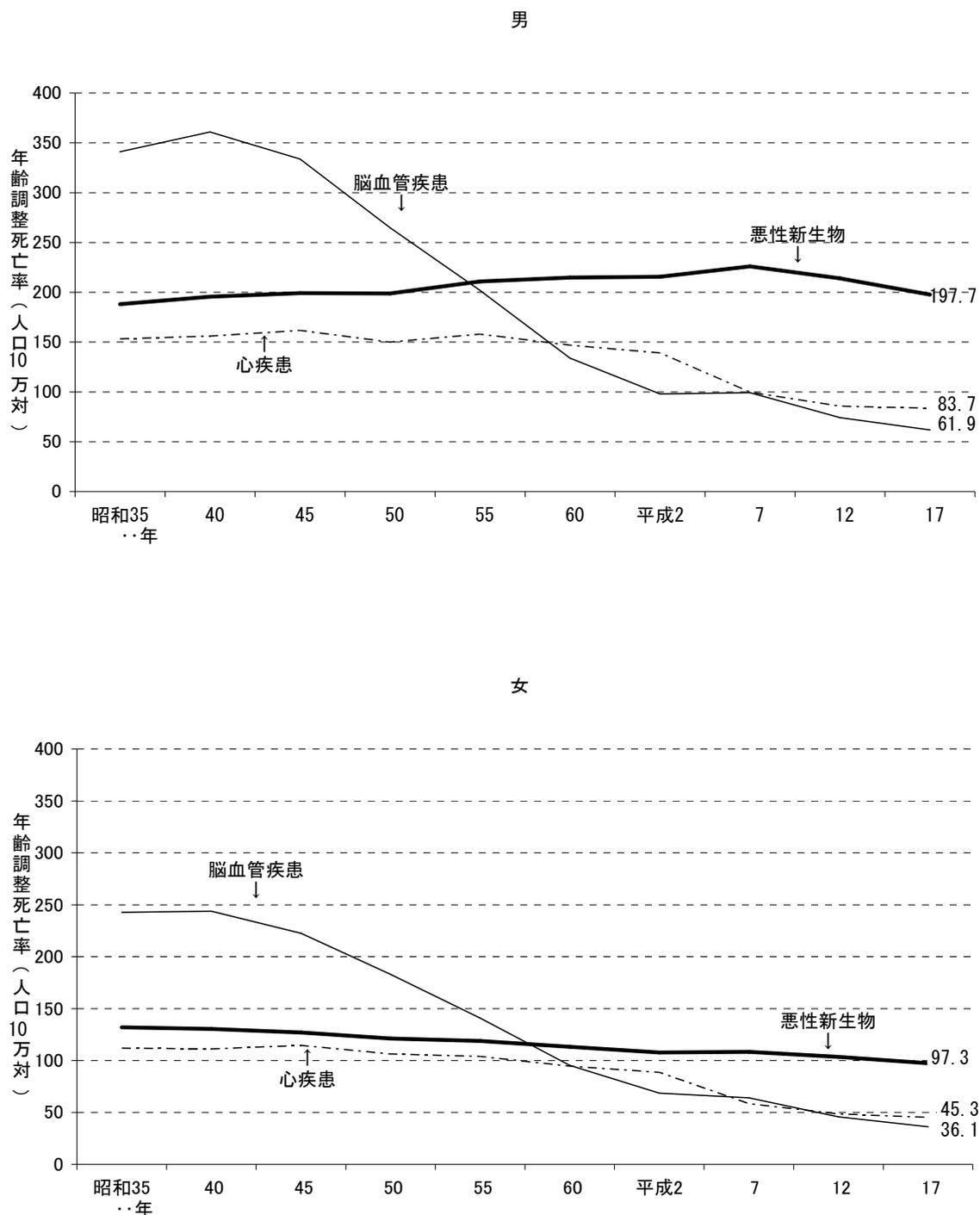
3. 三大死因（悪性新生物、心疾患、脳血管疾患）による死亡の状況

(1) 全国の三大死因による死亡の状況の年次推移

平成17年の年齢調整死亡率をみると、悪性新生物は男197.7、女97.3、心疾患は男83.7、女45.3、脳血管疾患は男61.9、女36.1となっている。

年次推移をみると、近年はすべて低下傾向にあり、特に脳血管疾患は昭和40年をピークに大幅に低下している。（図7-1）

図7-1 三大死因の年齢調整死亡率の年次推移

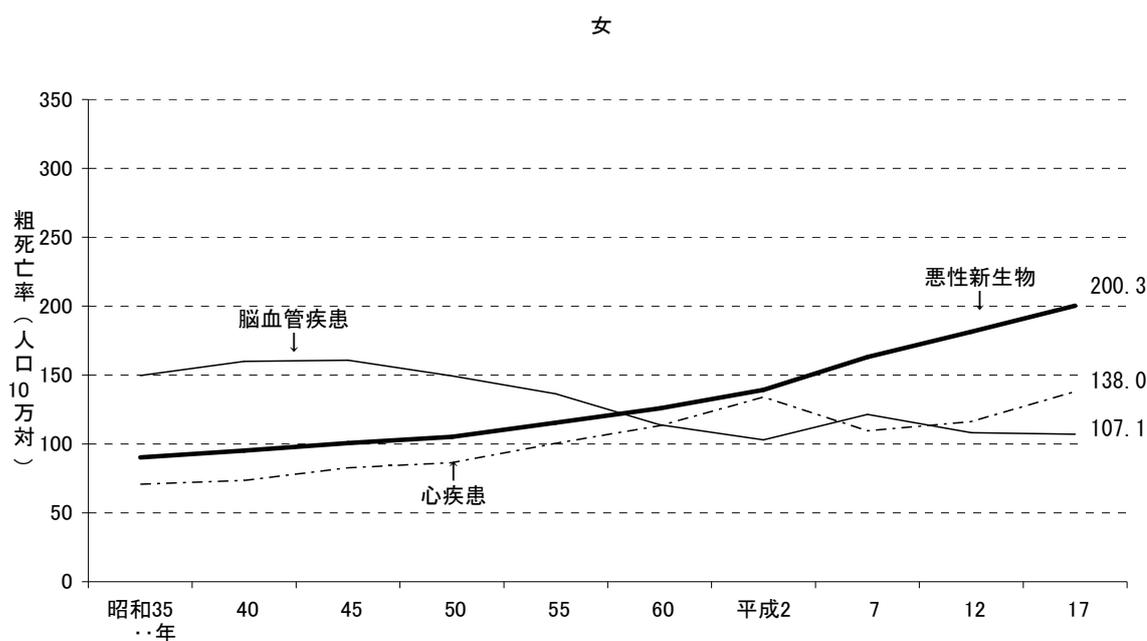
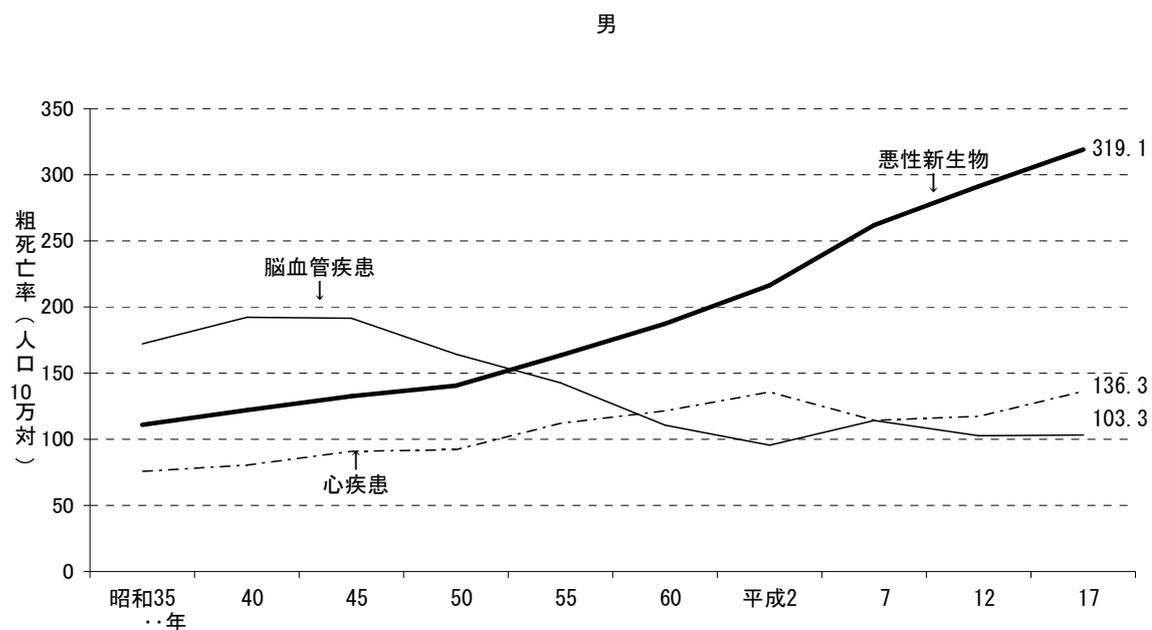


注：平成2年から7年にかけての心疾患の減少は、新しい死亡診断書（死体検案書）（平成7年1月1日施行）における「死亡の原因欄には、疾患の週末期の状態としての心不全、呼吸不全等は書かないでください。」という注意書きの周知の影響によるものと考えられる。

平成17年の粗死亡率をみると、悪性新生物は男319.1、女200.3、心疾患は男136.3、女138.0、脳血管疾患は男103.3、女107.1となっている。

年次推移をみると、男女ともに悪性新生物は上昇している。年齢調整死亡率が低下しているのに対して、粗死亡率が上昇しているのは高齢化の影響による。(図7-2)

図7-2 三大死因の粗死亡率の年次推移



(2) 都道府県別にみた悪性新生物による死亡の状況

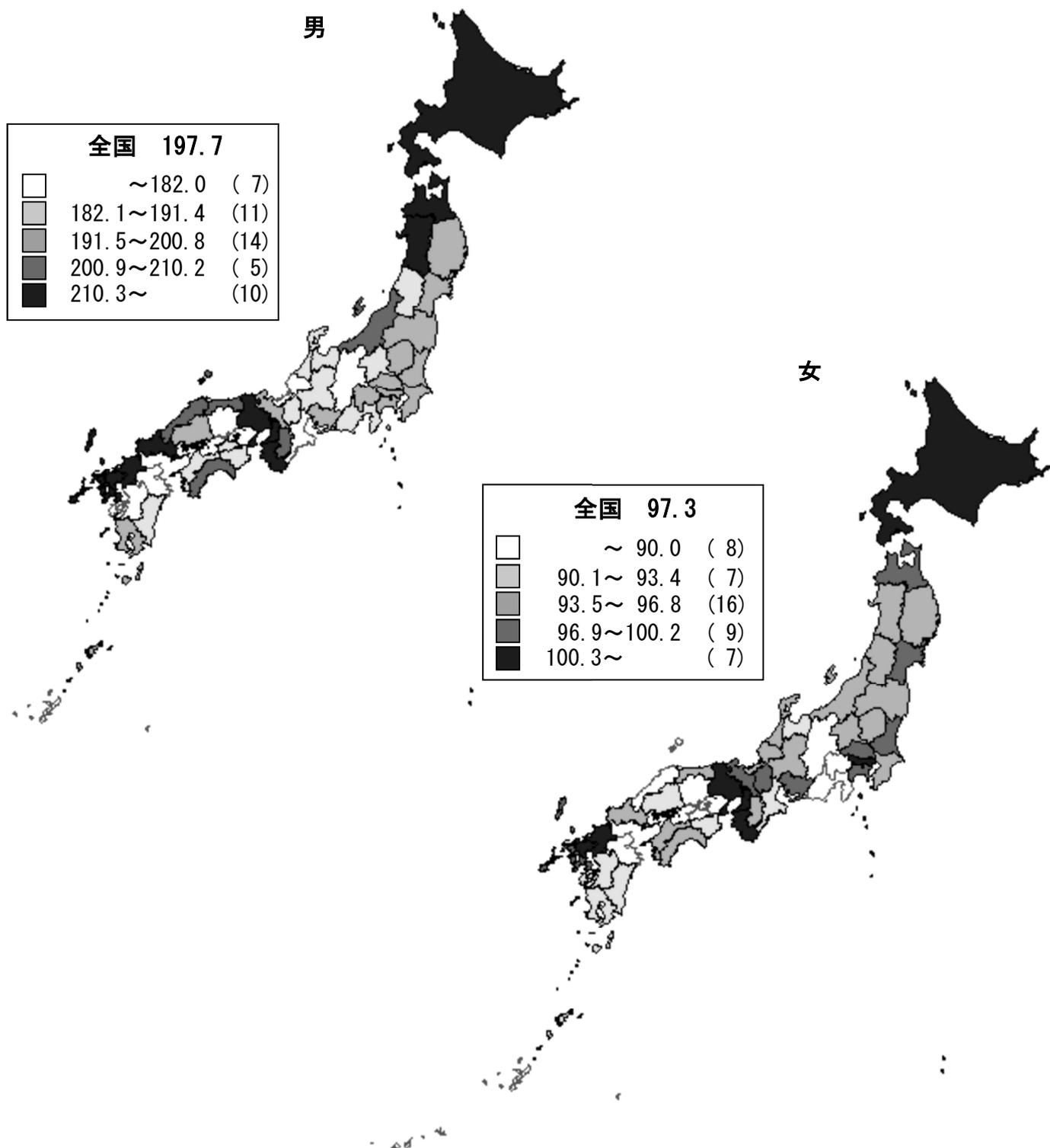
①平成17年の状況

悪性新生物の年齢調整死亡率は、全国では男197.7、女97.3となっている。

男の年齢調整死亡率の低い都道府県は長野、沖縄、熊本、岡山、大分等となっており、高い都道府県は青森、大阪、長崎、佐賀、福岡等となっている。

女の年齢調整死亡率の低い都道府県は岡山、長野、大分、山梨、沖縄等となっており、高い都道府県は大阪、佐賀、福岡、北海道、東京等となっている。(図8)

図8 悪性新生物の都道府県別年齢調整死亡率 ー平成17年ー

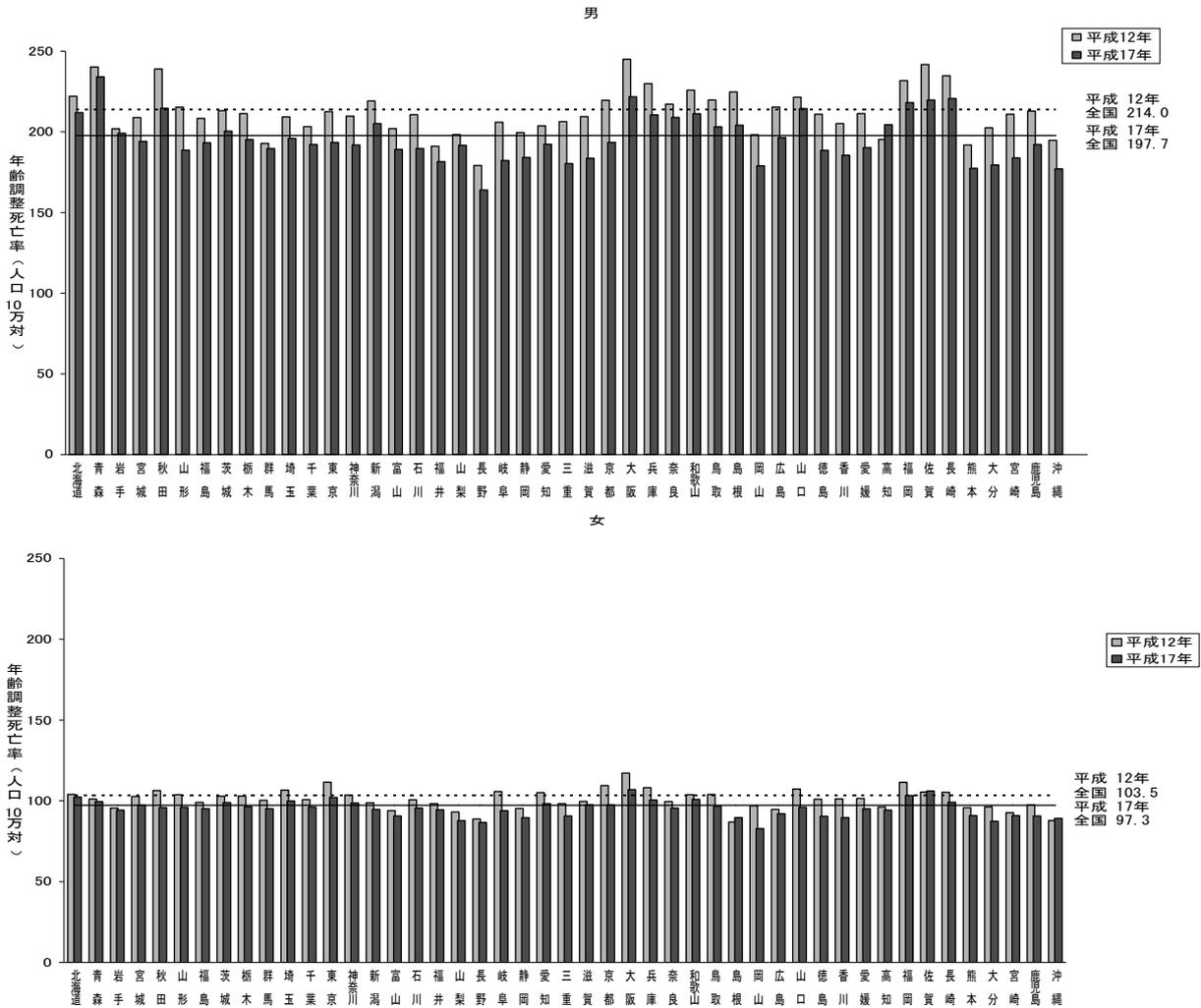


②年次比較

悪性新生物について、平成12年と17年の年齢調整死亡率を比較すると、全国では男は214.0から197.7、女は103.5から97.3と低下している。

都道府県別にみると、男は高知を除く都道府県で、女は島根、佐賀、沖縄を除く都道府県で低下している。（図9）

図9 悪性新生物の都道府県別年齢調整死亡率の年次比較 ー平成12年・17年ー



悪性新生物

都道府県	年齢調整死亡率 (人口10万対)			
	男		女	
	平成12年	17年	12年	17年
全 国	214.0	197.7	103.5	97.3
北 海	222.1	212.0	104.0	102.3
青 森	240.2	234.1	101.1	99.6
岩 手	201.9	199.1	95.6	94.3
宮 城	208.9	194.1	102.7	97.3
秋 田	239.0	214.6	106.4	95.9
山 形	215.3	188.7	103.8	96.1
福 島	208.4	193.3	99.1	95.1
茨 城	213.2	200.4	102.9	99.0
栃 木	211.4	195.3	103.0	96.5
群 馬	192.8	189.7	100.3	95.2
埼 玉	209.3	196.0	106.6	99.9
千 葉	203.3	192.2	100.8	96.2
東 京	212.6	193.4	111.6	102.1
神 奈 川	209.7	191.9	103.6	98.7
新 潟	219.2	205.2	98.8	94.8
富 山	202.0	189.1	94.0	90.7
石 川	210.7	189.7	100.7	95.6
福 井	191.1	181.6	98.3	94.5
山 梨	198.4	191.7	93.1	87.7
長 野	179.2	163.9	88.8	86.7
岐 阜	206.0	182.3	105.8	94.0
静 岡	199.5	184.2	95.3	89.6
愛 知	203.7	192.3	105.1	98.3

都道府県	年齢調整死亡率 (人口10万対)			
	男		女	
	平成12年	17年	12年	17年
三 重	206.4	180.4	98.3	90.7
滋 賀	209.5	183.6	99.7	97.7
京 都	219.6	193.6	109.4	97.6
大 阪	245.0	221.8	117.2	107.0
兵 庫	229.9	210.6	108.2	100.5
奈 良	217.2	209.0	99.6	95.6
和 歌 山	225.9	211.3	103.8	100.9
鳥 取	219.8	203.1	104.0	96.8
島 根	224.8	204.1	86.9	89.6
山 梨	198.2	179.0	96.9	82.8
岡 山	215.4	196.5	94.7	92.0
山 口	221.5	214.4	107.3	96.1
徳 島	210.9	188.5	101.0	90.5
香 川	205.2	185.5	101.2	89.7
愛 媛	211.4	190.2	101.5	95.1
高 知	195.3	204.5	96.2	94.3
福 岡	231.8	218.1	111.5	103.4
佐 賀	241.8	219.8	105.4	106.1
長 崎	234.8	220.6	105.3	99.2
熊 本	191.9	177.5	95.8	90.9
大 分	202.5	179.5	96.3	87.4
宮 崎	210.9	183.9	92.7	90.9
鹿 児 島	212.9	192.1	97.6	90.6
沖 縄	194.8	177.1	87.8	89.2